

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-014

名前：上青木 彩可

学会名：第 41 回日本診療放射線技師学術大会

開催場所：福井県福井市

開催期間：2025.9.12～14

発表セッション名：DMAT における診療放射線技師の実態調査

発表形態：一般セッション(e ポスター発表)

発表日時：2025.9.12

1. 発表の概要

本研究では、全国の災害拠点病院を対象にアンケート調査を行い、DMAT における診療放射線技師の役割と課題を明らかにした。技師は業務調整員としてクロノロジー作成や EMIS 入力を担い、原子力災害時には線量測定や防護指導、診療補助にも従事していた。BLS・ACLS など救命資格や技能維持訓練の有用性が示された一方、訓練・教育不足や出勤経験の少なさ、女性技師の派遣困難、訓練と実活動の乖離が課題であった。知識・技術継承体制の構築と教育・訓練の充実、多様な人材育成が求められる。本研究は放射線技師の災害対応力向上と災害医療体制強化に資する基礎資料である。

2. 質疑応答内容 他

質問は特になく、多くの意見をいただいた。

•小清水赤十字病院

超音波検査ができる技師は医師の依頼で現地読影も行っており、ポータブルエコー整備の重要性が指摘された。女性技師が派遣しにくい要因として、大型車の運転や山道での離合、ジャッキ操作などの負担がある。

•兵庫県診療放射線技師会

内閣府と連携し講習会や模擬撮影、試験を実施して教育を行っている。若手は単純撮影・読影の経験が乏しく、CT が使えない現場では単純撮影だけで診断する力が必要である。胸部や骨盤では緊張性気胸や骨盤骨折出血を判読する場合がある。氏名不明の患者も多いため、番号で情報を整理する必要がある。

•京都大学医学部附属病院

マニュアルを毎年点検・改善しているが、派遣研修は3日間を要し院内業務の調整が困難である。

•全体的指摘

災害・DMAT 活動では調達業務が多く放射線関連業務は少ない。BLS 講習は学生のうちに受講しておくことが望ましい。

3. 学会参加の感想

今回、初めて自分たちの研究成果をポスター形式で発表した。卒業論文としてまとめるだけでなく、現場で働く診療放射線技師に直接聞いていただき、アンケートでは得られないリアルな声を伺うことができ、新たな発見が多かった。発表後には「我々が思っていることをすべて言ってくれた」との言葉をいただき、災害医療研究に取り組んだ意義を実感した。また、さまざまな病院や立場の方々と意見交換し、研究成果の共有や最新知見の収集、研究者間の交流にもつながった。

特に印象に残ったのは、診療放射線技師の臨床実習に関する口演である。大学が学生を送り出す準備、病院の受け入れ体制の工夫などが報告され、教育面の取り組みとして興味深かった。大学や病院の実習プログラムの事例を拝見し、本学や自身の実習先との違いを知り、教育方法の多様性を実感した。

今回の学会参加は、研究成果を発信するとともに、多様な現場の取り組みや教育体制に触れる貴重な機会となり、今後の学びや将来の業務に大きく役立つ経験となった。

学会に参加する機会を得て大変ありがたく思う。今回得た知識や経験を今後に活かし、日々成長を重ねていきたい。引率してくださった平田先生、遠山先生、そして共に学会に参加した平田ゼミの仲間にも心から敬意を表する。

6. 現地参加がわかる写真(4枚)

